

日本で中医学修士課程を開設しました。 これは画期的なことです



現代医学の中心は西洋医学。しかし、西洋医学だけですべてがうまくいくということではなく、西洋医学が東洋医学の考え方を取り入れ、東洋医学は西洋医学の考え方を取り入れるなど、医学発祥からの垣根というものはほぼなくなっている。東洋医学の中心となるのが中医学。中医学を駆使して治療などを行う医師を中医師というが、日本で中医師の診療行為は認められていない。しかし、中医学に対する理解が浸透し、勉強を開始する医師や薬剤師も少なくない。黒龍江中医薬大学日本校では、日本で初めて日本国内で中医師の修士課程を新設、4月から授業を始めた。当然ながら中国政府が認める中医師の修士になれると話題になっている。

陳 堅 鷹 氏

黒龍江中医薬大学日本校学長

プロフィール◆ちん・けんよう氏(46歳)

1984.7中国上海中医薬大学卒。85.9上海市の国立病院医師、91.5中国整体研究院西八王子院院長(日本)、94.12第一中国気功整体専門学院開業(学院長)(日本)。96.4黒龍江中医薬大学日本校開業、学長に就任(日本)。95.4全日本中医薬学会会長(～現在)、2001.10中国黒龍江中医薬大学(客員教授)(～現在)、02.12世界中医薬学会連合会理事。世界中医薬学会連合会美容事業委員会副会長。1960年12月生まれ。

— 4月から、黒龍江中医薬大学日本校で中医学の修士課程がスタートしました。本校の黒龍江中医薬大学とはどんな大学なのですか？

「中国では各省にひとつずつ、中医学を教える大学があります。黒龍江省は中国の東北部にあり、黒龍江中医薬大学はハルビン市に1959年に国立として創立しました。35万㎡の敷地を持ち、在校生は2万人近く、教授は120人います。附属病院は6つあり、さらに漢方薬理、臨床効果の研究所も持ちます。西洋医学を教える大学は各省に2つぐらいあります。そういった大学事情の中で、中国が実施した全国の大学評価で黒龍江中医薬大学は2003年、オールA、評価を実施した全国の42大学の中でトップの成績でした。オールAは黒龍江中医薬大学、ただ一つでした」

— 日本校の開校の経緯や特徴は？

「中医学を推進しようと、中国の本校と同等のカリキュラム、環境を整え、1994年にスタートしました。現在までに1200人を超える卒業生を送り出しています。当校では中国整体、中国気功、漢方薬膳、中国鍼灸など中医学のすべてを学べます。講師陣は中国国立の一流医科大学を卒業し、大学病院や研究所等の第一線で活躍している先生方ばかりです。当校を経て中医師になる道を、私は作りました。中医師は日本では保険診療はできませんが、中国で公式なライセンスを得れば医師になり活動ができます。欧米諸国では中医学が学科の一つになっている大学もあり、医師として活動できる国々が世界中各地にあります。日本校で3年間学んだ後に中国の黒龍江中医薬大学に2年間の留学、卒業して中国の医学学士を取得、さらに附属病院で1年

間、インターンで臨床経験を積むことで中国の医師資格試験の受験資格を得ることができます。あるいは、より専門分野の知識を得て医療の現場での効果を高めるために学士から修士課程へ進んで研究室に入ることも可能にしました。けれども現実的には、学士・修士合わせて5年間の中国留学は日本人にとって極めて至難の業でした。そういったハードルを少しでも低くし、実際に日本の医療の現場で求められている中医学を、少しでも広く早く普及させていこうと開設したのが4月からスタートした修士課程なのです」

— 黒龍江中医薬大学日本校の修士課程とは？

「修士課程は『臨床中医師研究科』といいます。仕事をしながらでも学べるようカリキュラムも工夫をしました。だからすぐに、苦しんでいる患者さん達の役に立つことができます。何年も仕事ができなくなるなど現実的ではなかった中国留学についても、中国の本校と相談した上で、日本の医師、薬剤師、栄養士などを専門的に勉強してきた方々を対象として、日本国内での3年間で専門課程を勉強することができるようにしました。1カ月半の中国におけるインターンはありますが、中国最先端の医療現場を経験することは、必ず大きな成果を得られることと思いますし、例えば2週間ずつ3回に分けることなども可能で負担は大幅に減ります。中国では西洋医学は日本の厚生労働省と同じような組織が管理をしていますが、中医学は中国国家中医管理局が管理をしています。そして、今回の修士課程が中医師の専門教育として認められたことは、中国政府が日本校のカリキュラムと講師陣を受け入れてくれたことになるのです。これは画期的です。修士課程では、西洋と東洋の両医学の総合的な知識や経験を持つ新しい医師、漢方薬・薬膳を含めた製薬や栄養管理で活躍できる人材などの育成を図っていく考えです」

— 中医学の特徴を教えてください

「西洋医学は悪い所を集中的に治します。一方、中医学では病気になる前の予防、病気になった人は人間全体を見て、全体の調整を図ることで悪いところをよくしていこうというものです。このため中医学ではまず、脈から始まり全身状態、食事、過去の病気、ストレス、睡眠、顔色、舌診などを詳細に見ていきます。中医学では弁証論治（べんしょうろんち）といいます。弁証は証（しょう）を決めるということ、論治は証を基に治療するという意味です。そして、陰陽、虚実などの証をもとに治療を行って、元のバランスにもって行って、病気を治そうという理論です。実際に使うものは



体に優しいもの、そして患者がとりやすいもので、具体的には漢方薬、鍼、推拿（すいな：中国整体）、気功、運動食事療法（薬膳、太極拳など）が代表的な治療法です。全体のバランスを整えるためにさまざまなものを組み合わせることで大きな効果を発揮します」

— 今後、黒龍江中医薬大学日本校の目標は

「現在、米国の医学系研究機関の研究者のほぼ半数は中国の先生方といわれています。15年から30年後の医学会は、中国の影響力は相当高まっていくと考えられます。そういう環境から考えると、修士課程がスタートしたばかりですが、より高いランクのもの、具体的には博士課程を作りたいと思っています。現代医療の中心は西洋医学ですが、中国本校からの講師は西洋医学も学んでおり、患者ごとに西洋医学と中医学のいいところを組み合わせる最適な治療を行っています。今回開設した修士課程でも対象は医師や薬剤師、管理栄養士です。そういった専門家の間でも中医学に対する関心は高まっています。このため、授業の質を一層高めることにより、日本における最高レベル、本物の中医学教育を提供していきたいです。それと最後に一つだけ紹介をさせてください。この4月から指鍼（ししん）学科も新設してスタートさせました。今までの日本では指鍼の教育手法が確立されていなかったこともあり、まだあまり普及していませんが、日本の現代社会に最適な、全く新しい「ハリを刺さない鍼灸療法」です。指先を針に見立てて経絡経穴に刺激を与え、身体のバランスを整えていく手技で、力をかけないので痛み（ダメージ）や揉み返しがありませんし、金属鍼を使わないから衛生的で安心、鍼を使えない禁忌症にも有効です。また乳幼児にも施術可能で子どもも怖がらない、人にやさしい療法なのです。これは私の専門分野でもあり、日本に指鍼を広めてゆくことは私の使命でもあるとも考えています」